

G-3 中学校の制服製作に用いる市販型紙(ブラウス)寸法と計測値との関係。  
岩手大教育 ○清水 房, 池田揚子

目的 我々は中学校の制服製作学習に採択されている型紙のサイズと生徒の計測値との関係を追跡して、市販型紙の改善に資し、ひいては学習の効率化をはかりたい。

方法 昭和42年と47年に~~実施した~~岩手県内3地域(中都市・農村・山村)各1校を選定し、各学年50名を目標に<sup>して行った</sup>身体計測値を資料とし、兩年次の比較のもとに市販のブラウス型紙について検討した。一方実態調査によって(全県100校無作為抽出による)①市販型紙の活用状況、②出版社名 ③型紙寸法の補正箇所 ④假縫補正箇所 を把握する。それによつて市販型紙出版社をしぼり、解析対象となる部位を決定する。型紙寸法の補正箇所が多い部位を対象に市販型紙寸法と実測値との関係を学年ごとに考察する。

結果 ①調査は回収率56%となり、型紙をとり入れている学校は56校中47校であった。②出版社数8社で内4社で全体の80%を占めた。③型紙補正箇所は胸囲と背丈が多かった。以上のことから4社の型紙の寸法・作図比較を行ない、特徴を明らかにした。つぎに胸囲と背丈の計測値と型紙寸法区分別によつて相関分布表をつくり型紙寸法の枠内と枠外の入数分布を明らかにした。その結果両者の関係についてつぎのような結論を導いた。

即ち、昭和42年値と47年値の枠内(型紙寸法のはんい内)と枠外の人数間について<sup>2</sup>検定を行った結果、1年と3年において有意差がみとめられ、2年ではみとめられなかつた。また許容はんいを設定して同様の検定を行った処、1年においてのみ5%水準で差がみとめられ、他の学年ではみとめられなかつた。岩手の実態からは1年教材であるブラウスの型紙として問題が指摘された。